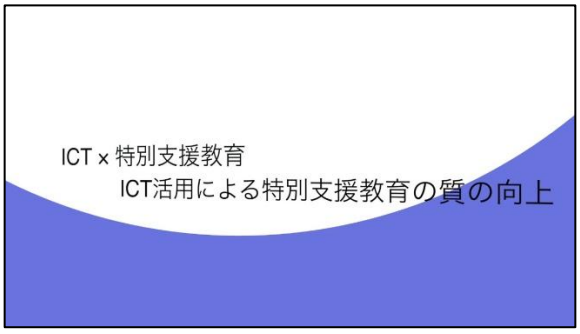
ICT 活用による特別支援教育の質の向上



内容

本コンテンツは、教育現場における ICT 活用の現状を調査した上で、ICT 活用実践力の育成を目的とした WS 型研修コンテンツとして作成している。具体的には、同コンテンツは3～4名が1グループとなり、グループ単位での閲覧を前提に設計し、1)ICT を活用する目的の共有。2)ICT に対する心理的障壁の除去。3)ICT を用いた実践事例のモデルケースの提示。4)アクセシビリティ機能を知る。5)個別の実態を踏まえて ICT 活用事例を検討する。の5段階で構成している。各フェーズの詳細は以下の通りである。

【フェーズ1:ICT を活用する目的を共有】

ICT 活用の必要性について、抽象的には理解しているものの、具体的に理解できている教師は少ない。そこで、フェーズ1は教師の既有知識(抽象的な既有概念)を用いて、WS を通して具体化することを目的とする。作成したコンテンツは「障害に起因するストレスについて考える」「障害の社会モデルと ICF について知る」「合理的配慮について知ろう」「アシスティブテクノロジーについて知ろう」「Society5.0 時代をイメージしよう」「ユニバーサルデザインについて知ろう」の6単元であり、それぞれ WS を通して既有知識を表出させ、講義を通した知識の精錬・具体化を志向して構築した。

【フェーズ2:ICT に対する心理的障壁の除去】

ICT 活用実践力が低い教師の障壁は「ICT は難しい・・」といった固定観念である。そこで、フェーズ2は「苦手意識をなくす研修方法」「シンプルな活用法から始めよう」の2単元であり、固定観念を除去することを目的に、ICT に関する既有知識(例:カメラ撮影, Web ブラウジング)のみで実践可能な事例について、WS 形式で討議することを志向して構築した。

【フェーズ3:ICT を用いた実践事例のモデルケースの提示】

この段階では目的が具体化され、実践のイメージを有していることが想定される。ただし、既有知識のみでは、想起できる実践事例の選択肢が少ない点が懸念される。そこで、フェーズ3を「コミュニケーションを入出力機器で代替する」「ICT を支援ツールとして活用する」「ICT を小集団で活用しよう」の3単元で構成し、実践事例を紹介することにより選択肢を広げると共に、WS 形式での協議を通して、対象となる児童生徒への活用可能性について実践レベルで検討することを志向して構築した。

【フェーズ4:アクセシビリティ機能を知る】

ICT を児童生徒に効果的に活用するためには、児童生徒の特性を踏まえた「フィッティング」が必要となる。ただし、フィッティングにはアクセシビリティに関する知識は必要不可欠であるが、操作に不慣れな教師はこの部分で挫折することが多い。そこで、フェーズ4は「アクセシビリティ機能について知ろう」の1単元で構成し、アクセシビリティの操作を複数名で実施することで、「取りこぼし」のない習得を目指した。

【フェーズ5：個別の実態を踏まえて ICT 活用事例を検討する】

フェーズ5は「意欲やモチベーションを意識して ICT を活用しよう」「ICT を AT として導入する際の留意点」「AT を取り巻く制度について知ろう」「特別支援教育で ICT を実際に活用してみよう」の4単元とし、各フェーズの内容を踏まえ、ICT の活用事例について検討することを志向して構成した。

講師 （所属等は令和 6 年 3 月時点）

兵庫教育大学 大学院学校教育研究科 准教授 小川修史